一関市・大東大原 水かけ祭り

願いかけ、駆け抜ける天下の奇祭

団 復興、火防、厄除け、大願成就。さまざまな願いをかけ、肩を組み納め水を浴びる裸男

駆 区間ごとに旗切りが先頭を切る

願 水かけ前。視線の先に何を見据える

誓 背中に書き込んだ「復興」への誓い

晴 清めの水を浴び、決意も新たに

追 裸男を追って通りを埋めた観客

凍 身を切る寒さに水槽の水も凍った

鳴 背中の鈴を鳴らしながら裸男の後をついて走る加勢人（かせっと）

舞 門付けで祝う家内安全、商売繁盛

気 気勢を上げる裸男とせめぎ合う消防団員

祈 八幡神社境内で行われた祈願。祈りを込めこうべを垂れる裸男

水躍る

当市の冬の風物詩「一関市・大東大原水かけ祭り」。

1657（明暦3）年の江戸の大火を機に始まった祭りは、今年で354年。時代を超えて受け継がれてきた。

2月11日、県内外から大原商店街に集まった裸男は267人。おけからこぼれた水が凍るほどの寒さの中、合図と共に一斉に走り出す。沿道の見物客が浴びせる清めの水が弧を描き、男たちの体はたちまち赤く染まる。掛け声に合わせてぶつけ合う体からは湯気が立ち上る。こうして祭りは最高潮に。

「水かけ」には、東日本大震災で被災した三陸沿岸地域からも約30人が参加。復興への決意を胸に、700㍍を駆け抜けた。

厳寒の大原を熱くした男たち。清めの水が躍った祭りをカメラが追った。